

## 総合的な学習の時間「パラリンピック」と体育科「ゲーム」

### ブラインドサッカー体験の様子

パラリンピック種目体験で共生の態度育成を①ブラインドサッカー

#### ●こんな子どもの姿を期待できます

- ・パラリンピックや障がい者スポーツへの関心が高まった子ども
- ・障がいの有無や国の違いに関わらず互いを尊重する子ども
- ・誰もが楽しむことができるルールを考え、生み出す子ども



### 1 ブラインドサッカー体験

アビスパ福岡スクール推進部コーチであり元ブラインドサッカー日本代表の藤井先生を講師として招聘し、体験活動を行いました。講師が体験したことや実感したことを伝えていただき、パラリンピックについてほとんど知らなかった子どもたちの関心を高めることができました。まずはブラインドサッカーという競技について、そして国際大会での出来事等も交えて話を聞きました。「障がいの有無に関わらず、ルールを考え出すと共に楽しむことができること」「国や文化が違って、互いを尊重し合うことの大切さ」「スポーツの価値」等について学んでいきました。その後、実際に体験をする中で、障がい者スポーツの奥深さや、競技者のすごさを実感しました。この学習では、PTA家庭教育講演会を兼ねて実施し、保護者と内容を共有しました。家庭でオリンピックやパラリンピックについて話をするきっかけをつくることにもつながりました。また、第5学年の体育科と教科横断的に取り組みました。

### 2 調べようパラリンピック

総合的な学習の時間の福祉（第4学年）の単元では、車椅子・アイマスク体験を行いました。その学習を受けて、第5学年「調べよう！パラリンピック」の学習を位置付けました。パラリンピックの種目や用具とその工夫、パラリンピアン思い等を調べて、発信していきました。その中で、車椅子ラグビーの池選手や走り幅跳びの鈴木選手のパラリンピックに対する思いや考え方に触れていきました。多くの人への感謝の気持ちや他の人のためにスポーツにかける思い等も学んでいきました。



#### ココがポイントです！

- ①教科横断的に取り組むことで、効果が高まります。
- ②国際大会の経験談を聞くことは大変有効です。
- ③保護者の参加を促すと、内容を共有でき、家庭でもオリ・パラについて話す環境ができ、効果が高まります。

### 保護者の参加



### ゲームの様子



